

# 檢地仕法



## 門檢地仕法

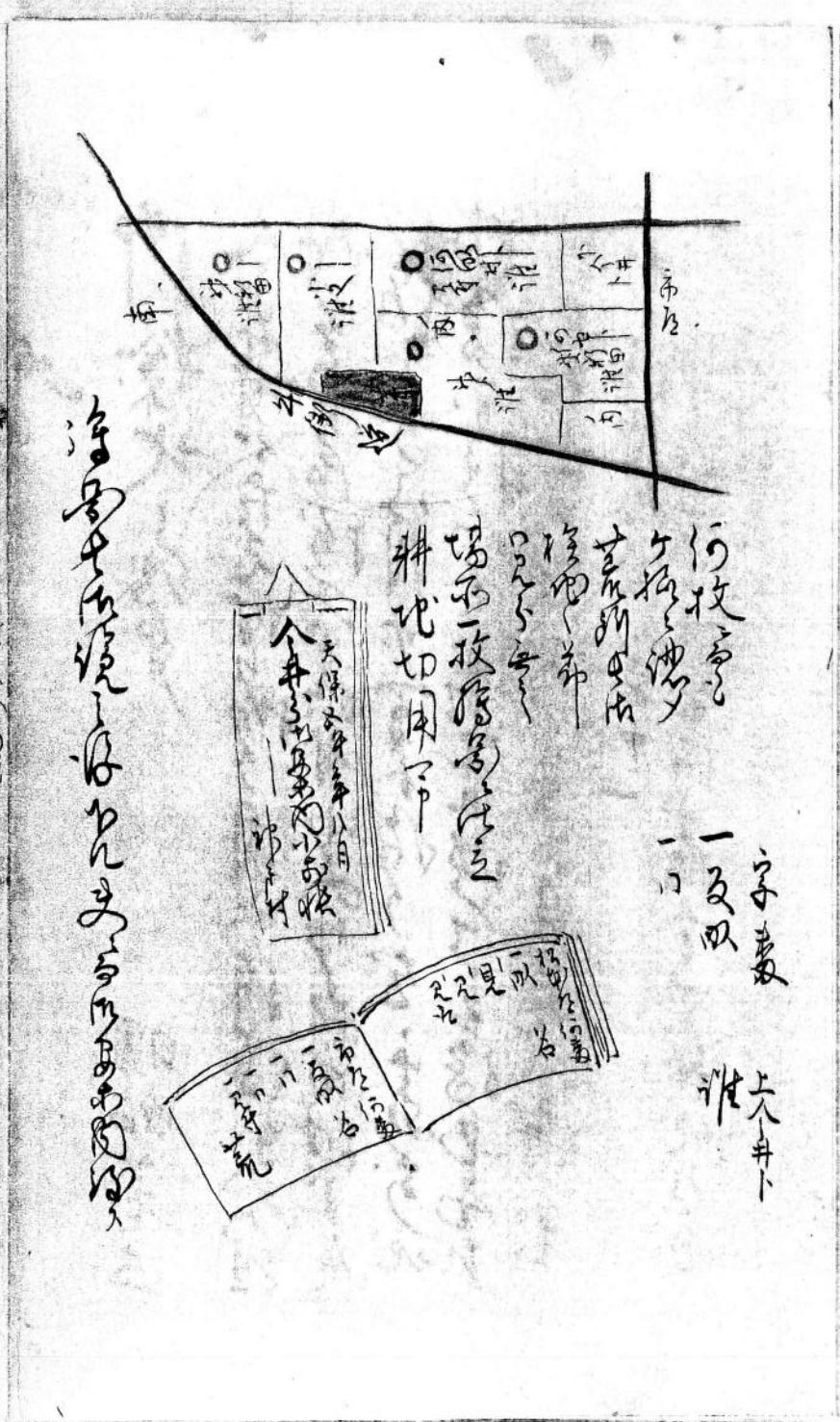
暉始著玉

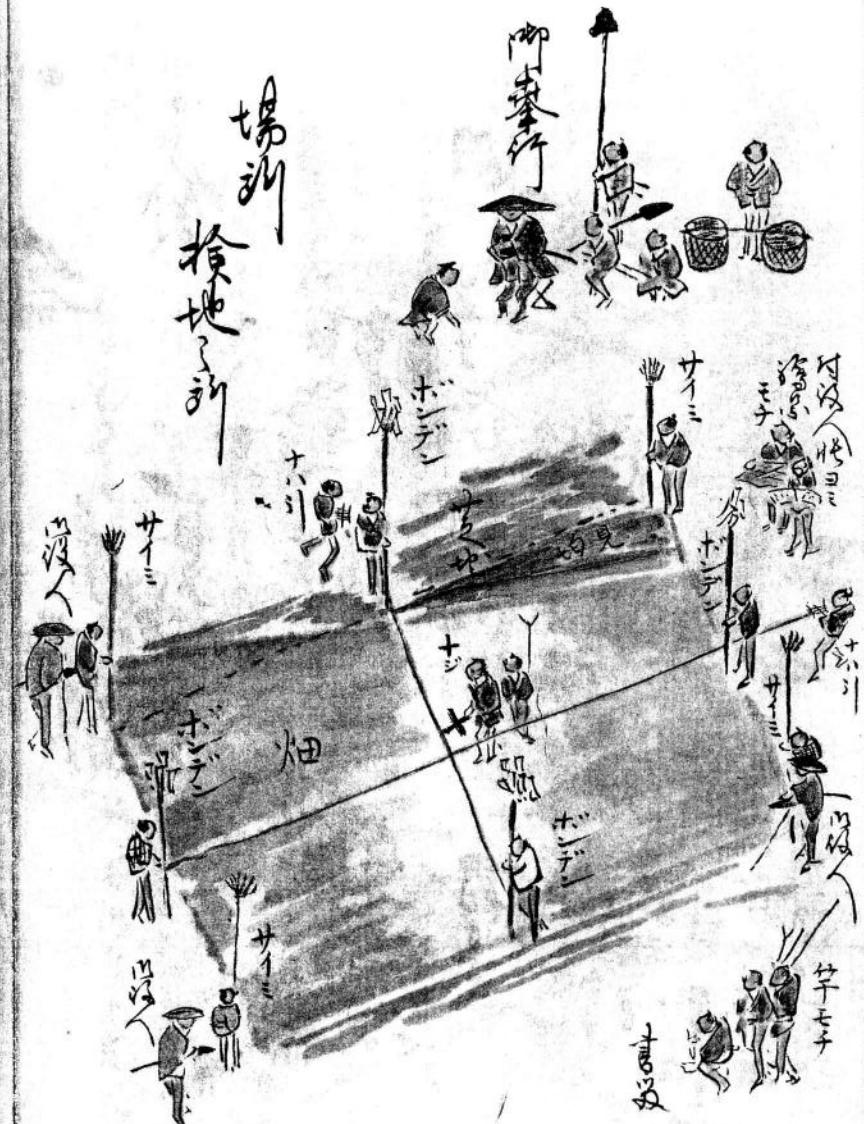
人耳內有方正奇形者用火剗僵如刀劍  
消多氣少者宜用火剗而存少者利用水剗  
切勿急之以火者必自燃者也勿急之以水  
則氣不散者亦可也此皆是火剗而存水剗  
者也此皆是火剗而存水剗者也勿急之以水  
則氣不散者亦可也此皆是火剗而存水剗  
者也勿急之以水則氣不散者亦可也

混元



清高士傳





おどろきの如きは、まことに人間の爲めに  
大あつたえり。とては、

詩人、向かう

河を西向ひ、河原下處の、

まことに、

りの音とかられ、風の音と、波の音と、川の音と、  
かたの音の、川の音と、波の音と、川の音と、  
川の音と、波の音と、川の音と、波の音と、川の音と、  
かたの音の、川の音と、波の音と、川の音と、

かたの音の、川の音と、波の音と、川の音と、

川の音と、波の音と、川の音と、波の音と、川の音と、

かたの音の、川の音と、波の音と、川の音と、

一月廿二日

沙羅の拂子を拂ひてかまのゆゑを  
沙羅の拂子一束を拂ひ方の拂子が拂ふを

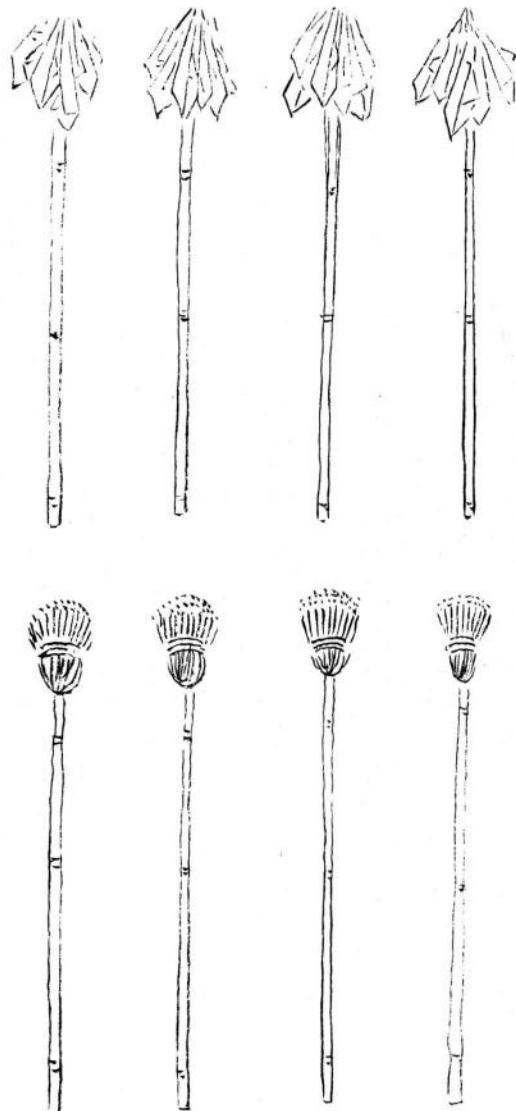
市役

拂子の拂子うちの拂子と拂子の拂子の拂子  
拂子の拂子うちの拂子の拂子の拂子の拂子  
拂子の拂子うちの拂子の拂子の拂子の拂子

## 檢地道具備增

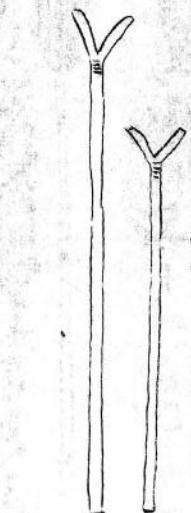
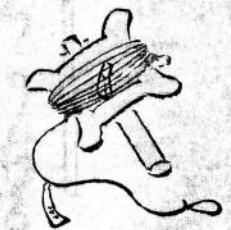
梵天 四本  
ボテンの方

細見 四本  
サイミ



蔓

又様



写筆

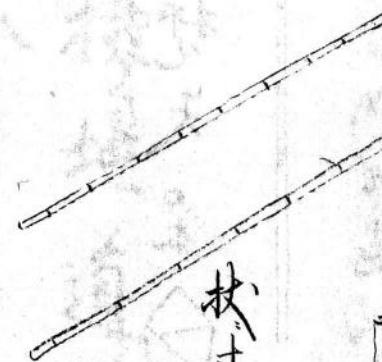


二

字



杖寸有



御檢地御役人

御勘定小奉行

御用

御用

高柳小三郎

御用

奉行

國中之制為常  
以國人者寡不勝

御善後渡水井多矣

御浮定則後發而進

善渡

川原平節

人主專得移

御浮定則善渡河人主移之節

御浮定善渡人主專濟之節

津宜則

善濟人主濟之節

浦則地改

善濟人主濟之節

皆有其用少則少濟多則多也(大一  
基國而治)水旱之急則當急濟之(大一  
國而治)

人子集

卷之三

柳宗元  
河東先生集

初學者  
書於東都

由義常變  
則而平節  
人主厚節

蒙古文

人主中  
行之節

卷之三

卷之三

御  
文  
行

白居易集

一  
大  
大  
大

沙利也沙利也沙利也沙利也沙利也

上人手札  
沙利也

沙利也沙利也沙利也沙利也沙利也

見ゆる所を西行す。

其處をかみ

不思議の事あつた。

其處をかみ

之處をかみ

高麗國の事あつた。

又人間の事あつた。

其處をかみ

之處をかみ

之處をかみ

残拾五町の事あつた。

高麗拾五町の事あつた。

見ゆる如きの事無く

其の力す

又は御心を以て下

其の意を申す事無

シテ御心を以て下

御心を申す事無

又は御心を以て下

其の意を申す事無

シテ御心を以て下

御心を申す事無

又は御心を以て下

其の意を申す事無

シテ御心を以て下

其の意を申す事無

シテ御心を以て下

其の意を申す事無

シテ御心を以て下

其の意を申す事無

シテ御心を以て下

其の意を申す事無

シテ御心を以て下

其の意を申す事無



右吉日之御茶向人辰爾開年高誌  
天保五年八月 九山翁之啟

暉始